

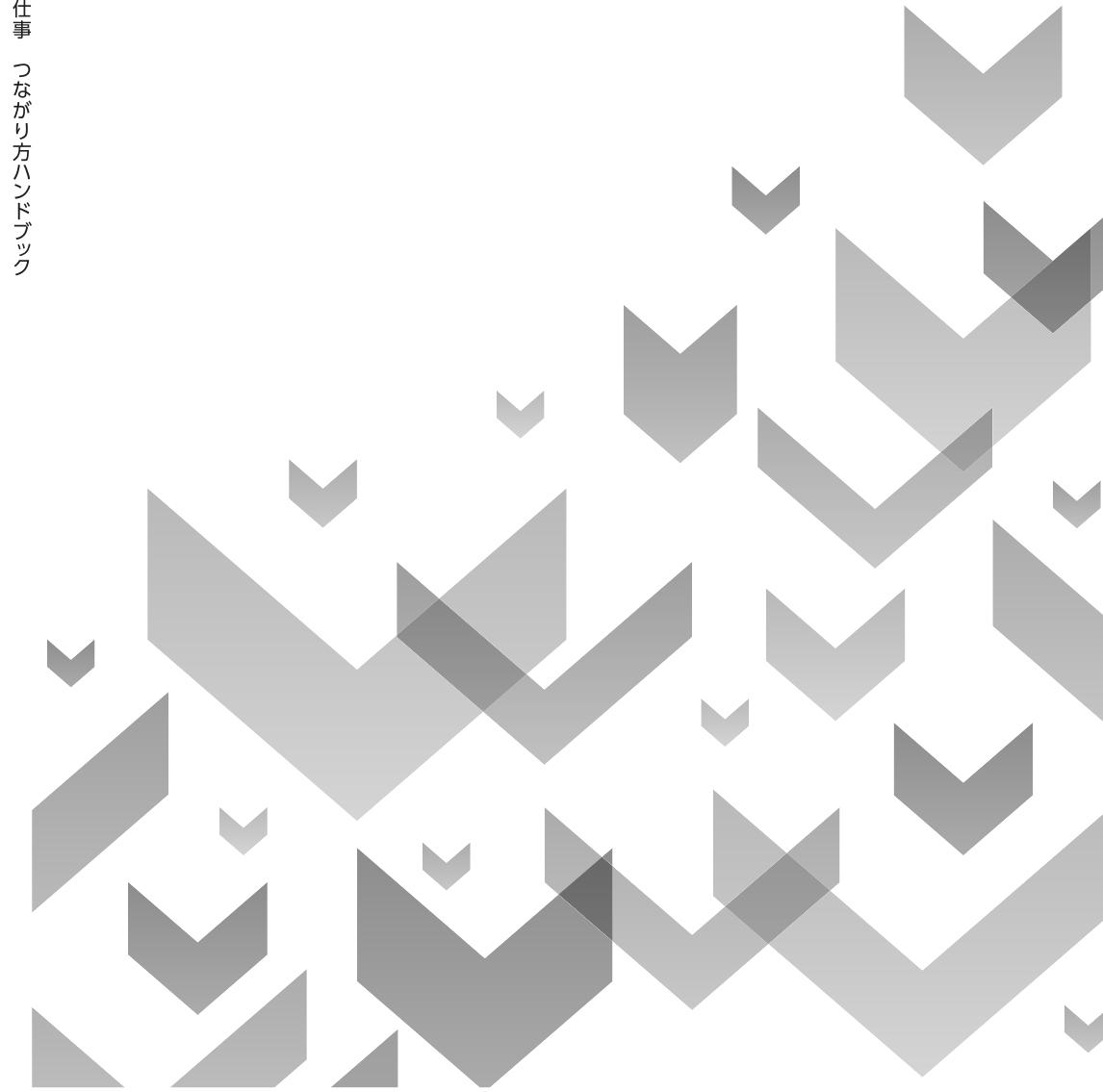
今から始める人たちを応援する

# 障害者福祉の仕事

---

## つながり方ハンドブック

今から始める人たちを応援する  
障害者福祉の仕事  
つながり方ハンドブック



## はじめに

これからどんどんニーズが増える仕事、国が年々多くの予算をついている仕事、人と接することの本質に触れる、やりがいのある仕事。これは現在の「障害者福祉の仕事」のことです。

福祉というと、労働条件が悪いというイメージがあるかもしれません。確かに、一流企業に比べれば給料が安いところがほとんどですし、体力を使うこともあります。

しかし、今、企業等から早期退職・定年退職した人たちが福祉の道に進み、充実した職業生活を送っている事例が多くみられます。

このハンドブックは、福祉（特に障害者福祉）の仕事とつながるストーリーをご紹介しながら、福祉の仕事への第一歩を応援することをめざして作成しました。

また、障害者福祉の事業所の方にも、企業等から応募する人の背景などを理解する一助としていただければと思います。

令和6年度社会福祉推進事業  
「企業等から福祉現場への人材供給に関する調査研究事業」検討委員会

※本ストーリーに登場するのは架空の人物です。

ただし、図の部分は実際のデータ等をもとに作成しています。

### 登場人物



ヤマダさん

大手の食品会社に勤務。定年を間近に控え、セカンドキャリアを模索中。



ハヤシさん

ヤマダさんの元上司。  
ボランティアとして関わっていた縁で、早期退職して障害者福祉施設で働いている。



ハヤシさん、今日はちょっとご相談があって。私ももうすぐ定年になります。今から他の仕事に転職するのも勇気がいるし、新しい仕事を覚える自信もなくて…。  
できれば今の会社に残れるほうがいいかなと思っているんですが、どのようにキャリアビジョンを描いて、自分の可能性を探したらいいのかなと悩み中なんです。



人生の選択だから、悩むよね。基本的には今の会社に残りたいんだね。あの会社は待遇は悪くないし。



はい。ただ、積極的に残りたいかというと、そんなこともないんです。

これまでの経験を活かせる仕事や職場があればいいのかかもしれません。



自分の強みは何だと思う？



そうですね、長年営業をやってきたので、コミュニケーションを取るのは得意だと思います。あとは、臨機応変に対応するのもそれなりにできます。



それなら、障害者福祉の仕事も向いてると思うけどなあ。



今まで障害者と関わったことなんてないですし、それは無理ですよ。ハヤシさんは会社にいたときからボランティアをされてたので問題なかったでしょうけど。それに、これまでの経験を活かせる場所でもないでしょう。



いやいや、そんなことないよ。  
実は、障害者福祉の仕事は、こんなに多様なんだ（次ページ）。民間企業のミドルシニア人材から転職した人もたくさん活躍してるよ。

## 障害者福祉の仕事の一例

### 障害のある人を直接支援する

#### 生活支援員

- ・事業所内で食事・着替え等を介助する
- ・訓練やレクリエーションを行う



#### ホームヘルパー

- ・自宅を訪問して、家事などを支援する



#### ガイドヘルパー

- ・外出に同行して支援する



#### 就労支援員

- ・事業所で働くことを支援する
- ・職業訓練を行う



#### 運転手

- ・自宅と事業所の間の送迎を行う



### 事業所の運営を支える

#### 総務・経理・人事

- ・事業所の事務を行う



#### 広報・営業

- ・ウェブサイトを運営する
- ・事業所で商品を作っている場合などに宣伝や販路開拓を行う
- ・潜在的な利用者への認知拡大を行う



※そのほかにも、資格が必要な業務を含め、さまざまな仕事があります。



へ～ 一般企業と同じような仕事もあるんですね。



企業から来た人は、職業訓練や広報・営業とかで重宝されてるよ。もちろん、どういう内容の仕事がしたいかはその人の意向にもよるけどね。



でも、障害者とのコミュニケーションにはやはり自信がありません。



障害のある人のことを知るまでは、抵抗があるかもしれないね。私たちが若かったころは、まだ障害理解も進んでなかっただし、学ぶ機会もなかったからなあ。

一度うちの事業所に来てみない？ それか他の事業所でも、いろいろな関わり方で経験することができるよ。

### 障害者福祉との関わり方

#### 事業所見学、就労体験

まずは就職フェアや就職相談会をきっかけに事業所と話をしてもいいでしょう。

#### ボランティア、副業

本業の休みの日に、ボランティアや副業として働く人もいます。最近では副業を積極的に認める企業も増えているため、収入を得ながら福祉業界を経験しやすくなっています。

#### 出向

近年、CSR(企業の社会的責任)が重視されるようになり、自社の商品・サービスに「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の考えを取り入れる事例も増えてきました。その方法・ニーズを学ぶため、福祉業界に出向する人もいます。



だんだんやってみたくなってきました。  
でも、福祉の現場のほうは、何の経験もない人を受け入れてくれるのでしょうか？ 資格も何も持っていないし…



事業所によって違いはあるけど、最近はどこも人手が不足しがちだから、積極的に受け入れているところが多いんだ。特殊な業務でなければ、資格がなくても大丈夫だし。それに、入職後に資格取得をサポートしてくれる事業所も多いよ。

#### 入職者に対する福祉事業所のサポート例

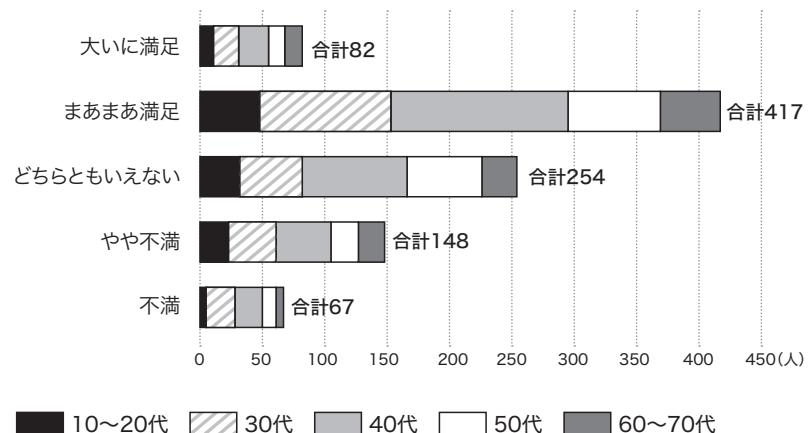
- ・研修プログラムの実施
- ・OJT（実務を通したマンツーマン指導）
- ・定期的な面談や相談窓口の設置
- ・資格取得支援のための助成・休暇、受験料や旅費の支給
- ・上司や同僚に相談しやすい雰囲気作り

※社会福祉法人千楽(2024)「令和5年度社会福祉推進事業 企業等から福祉現場への人材供給に関する調査研究事業 報告書」より



それは心強いですね。あとはやはり、待遇面が気になります。定年後とはいえ、私の場合は年金も少ないですから、ある程度の収入を確保しないと。  
福祉関係は「給料が安い、休みが少ない」と聞きますし、自分を犠牲にして働いているイメージがあります。実際のところ、どうなんですか？

#### 転職者の給与満足度



※一般社団法人スローコミュニケーション(2021)『障害福祉業界への転職BOOK「福祉ではたらく」』より



確かに、全般的に給料が高いとはいえないのは事実かも。ただ、事業所もできるだけ待遇を改善しようとする動きがあるんだ。それから、事業所の開所日時が決まっているということもあり、計画的な就労や休暇取得は他の民間企業より優れているとの声も多いよ（本冊子 36～41 ページも参照）。

また、君の言うように「つらい仕事」というイメージがあるかもしれないけど、長年企業でしのぎを削りながら働いてきた人たちからすると、福祉の仕事に人がもつ優しさや癒やしを感じる場合も多いんだ。私もまさにそうで、天職に転職したなと思うね。

……こんなインタビュー記事もあるから、ぜひ読んでみて。

## 転職者のインタビュー

企業等から福祉の仕事へと転職した人に、どのような経緯で転職したのか、実際に働いてみての感想、企業等での勤務経験がどのように活かされているのかなどについてインタビューしました。いずれも最近5年以内に転職した人で、現在は障害者支援を行っている社会福祉法人に勤務しています。

障害者との接点がこれまでほとんどなかった人ばかりですが、意外にすんなりと障害者支援の仕事になじめていることが共通しています。さまざまな状況への対応能力や柔軟性など企業等での長年の勤務で培ってきたものが活かされていることがうかがわれます。

※ 年齢等はインタビュー時のもの。



Aさん(62歳、男性)

流通関係の会社で管理職(役員)をしていた。転職して2年半。現在は障害者支援の社会福祉法人の生活介護事業所で行動障害のある知的障害の人たちの支援をしている。



—どのような経緯で福祉に転職しましたか?

前の会社では30歳から59歳まで働き、定年直前に希望退職に応募しました。定年再雇用で会社に残りたくなかったんです。役員だったので、全員部下の中に残ることになりますし、内部監査の仕事も気が進まなかった。まったく別の業界もいいかなと思ったんです。当時は2021年で新型コロナの拡大期でした。求人はほぼなかったです。

親が介護サービスを利用し、介護現場に私が立ち会っていたので、介護には興味もありました。ただ、障害とはまったく無関係に生きてきました。転職あっせん会社に経歴書を送ったら「あなたの経歴では（福祉は）無理です」「顧問やフリーランスの仕事を紹介するのでそちらに……」と言われました。

しかし、介護の仕事がやりたくて、福祉事業をやっている会社の初任者研修を受けました。その会社にも就職希望を出しましたが、断られました。福祉業界は人が足りないと言っているわりに門戸を閉ざしているのだと思いました。ほかの法人に願書を送っても、面接もしてくれない。「立派なご経験ですが、うちでは無理です」「経験者がほしい」と言われました。

—労働条件（給与・休暇など）がどのように影響しましたか？

特に給与面の希望はなかったです。給与がたくさんほしくて福祉の仕事に応募したわけではないので。休みがほしいのだったら、仕事しなければいいだけ。子どもはすでに社会で働いており、そんなにお金は必要ないです。

—前職の経験がどのように生きていますか？

6人単位の生活の場で利用者の生活支援をしていますが、行動障害のある人はなかなか大変です。最初は戸惑いましたが、慣れてきますね。意図的に悪いことする人は世の中たくさんいますけど、彼らは自然じゃないですか。

以前の仕事の内容とはまったく関係ありませんが、長い会社勤務の中で嫌なこと含めていろいろな経験をしてきたので、利用者が暴れてもあまり驚かないです。悪意があって人を陥れようとするような人たちとの出会いは山ほどあるので、そんなのと比べるとたいしたことはありません。

—入職前に思い描いていたことと、実際との違いはありますか？

もともと思い描いていたことはないので、ギャップはありません。同じ職種での転職ならあるでしょうけど。

—今の仕事内容とやりがいは何ですか？

障害の重い人の生活支援をしており、利用者の発語は少ないですが、こちらの支援がうまく行ったときに表情を穏やかにして笑うときあります。その姿を見るのはうれしいです。今のはうまく行ったのだという満足も感じます。

—定着のための秘訣は何だと思いますか？

人によっては1週間もたないような気がしますが、ふつうにやつていれば定着するのではないでしょうか。条件面での希望が高くなれば。

ストレスは全然ないです。売り上げとか、会社にいたときの月末のストレスと比べたら……。

—社会福祉法人として気をつけることは何だと思いますか？

月1回は個人面談するとかいってもそういう時間は取りにくいとは思うので、ふだんからコミュニケーションを取るのが大事だと思います。

最初は戸惑いがあり、何を聞いていいのかもわからないので、法人側から話かけてもらうのがいいです。「何でもいいからやらせて」「何でもいいから聞いて」と言われるのが最も困ります。明確にやることを決めて指示してほしいですね。

—企業からの転職者を増やしていくために、  
どんなことが必要だと思いますか？

今は人が足りないというけれど、どういうことができる人が足りないのかがわかりづらいです。結局、若くて経験ある人がほしいということなのか。それであれば、ただ「人が足りない」と言っても無理じゃないですか。

もう少し具体的に、こういう人がどういう条件でほしいのかをわかりやすく言うべきだと思います。単に「年齢問わず」と書いても書類だけで却下する。そういう閉ざされたイメージがあります。

給料が安いと言われますが、世の中もっと安いところはたくさんあります。すごく高いところはごく一部。99%はそんなに高くない。福祉業界が過度に悪く言われています。メンタル不調も企業でだつてしまつちゅう出ます。むしろ福祉業界では、家に帰ってまで仕事に追いかけられることはないです。実際、以前にいた会社では、休み中もメールを確認しないといけなかつたです。



Bさん(56歳、女性)

インナーウェアメーカーで事務系の仕事をしてきた。早期退職を会社が募っているのをきっかけに、障害者支援の社会福祉法人に転職。4か月が過ぎた。



—前職ではどのような仕事をしていましたか？

インナーウェアメーカーで営業事務・一般事務、販売計画といった内勤の仕事を約35年していました。

—どのようなきっかけで転職をしたのですか？

福祉は自分の身近には何もなかったのですが、会社の方から希望退職を募るということで、いい社会福祉法人があるので見学に行ってみない？と会社から勧められました。退職するかどうかすごく悩んでいたので、ちょっと興味を感じて見学をさせていただいたのがきっかけです。

—見学した時に何を感じましたか？

知的障害のある利用者さんとのふれあいというか、案内していたときに、利用者さんがトコトコとやってきて握手されました。ああ、こういうの嫌いじゃないな～と自分の中にある感情が起り、それが心の隅っこに残っていました。

—それまでは障害者との関わりはまったくなかったのですか?

なかったですね。ただ、ご近所の方のお子さんやお孫さんに障害のある方がたまたまですがいらして、会話するくらいのことはありましたね。

—転職に際しては他の業界の会社から内定をもらっていたそうですが。

チャレンジということではないのですが、せっかく転職するのであれば、今までやったことのない、自分の知らない分野にチャレンジしてみたい。そんな気持ちが大きくて、福祉の仕事の方を選びました。

—今はどのような仕事をしていますか?

人事と給与関係、それと利用者さんの請求関係とかサービス希望票の入力の打ち込みとか。社員との関わりだけでなく、利用者さんとの間接的な関わりもある仕事をさせていただいている。

—施設内での仕事なので

事務所にいても利用者と接することもあるようですね。

とても楽しいです、はい(笑)。初めにお話をいただいたときに「利用者の支援の仕事も多少はあります」と言っていたので、自分の中では、それは問題ないなと思っていました。お昼に共有スペースでご飯を食べていると、利用者が入ってきて「〇〇さん(自

分の名前)」と声を掛けてきたりします。すごく認めてもら正在いるというか、「〇〇さん」という人(私)がいるというのを理解してくれている。それがとっても嬉しくて。利用者さんはそれぞれ障害の種類や度合いが違うというのを、私は全く知識がないのでどういうふうに接したらいいのかというのまだよくわかっていないのですが。そこはおいおい教えていただきたいなと思っています。

—利用者さんはどんな人たちですか?

もう本当に純粋、ピュアで。こちらもそういう気持ちで接することができます。スタッフのみなさんも優しい方たちばかりなので、人間関係の面でも良くしていただいているなと思います。

—企業に勤めていたころの自分と比べてどうですか?

前の会社でも笑顔で気持ちよく、楽しく仕事をしていましたけれど、今の方が本当に楽しく仕事をさせていただいている(笑)。

—今後は直接に障害のある方の支援もしてみたいと思いますか?

まだ目の前の仕事をおぼえるのが精いっぱいではあるのですが、やっている中でわからないことが多いんですね。福祉に関する国の制度とか、全く知らなかつた世界に飛び込んできたので、それを知りたいという気持ちが強くあります。そうすると自分の中でやりがいがまた出てくると思います。利用者の支援ができるようになれば、何かに貢献できている実感もまた出てくるのかなと思います。

す。少しづつ支援もできるようになればいいなあと思います。

—働いている職員の年齢層は幅広いですよね。

前職では早期退職がありました。会社としては若い人を育てたい方針があるのです。もしも会社に残った場合、10年後の自分がどうなっているのかを考えました。そういうこともあって新たに福祉の世界に飛び込んできました。実際、今の職場に来て働いてみると、若い人から65歳過ぎても70歳になっても元気にお仕事をしている人もいて、そんな姿を見てはびっくりしています。10年後、ここでも自分が活躍できる可能性があるのかなと、すごく感じました。

—福祉の仕事は働きやすいと思いますか？

有休とか育児休暇は取りづらいのかなと思っていたが、すぐに払拭されました。思っていたよりも働きやすい職場だと思います。自分の中で福祉という選択肢がなかったので、変な先入観がないまま飛び込んでき、かえって良かったのかなと思います。違和感はまったくないです。

—この法人では利用者ご家族の希望もあって、

年末年始も日中一時支援サービスをしていますね。

若いスタッフと一緒に私も今年は12月31日まで勤務します(笑)。正月は3日までお休みをいただきます。それも子どもたちが育った今だからこそ、そういう働き方ができるのかなとも思います。

Cさん(62歳、男性)

バス会社の営業所長など管理職をしており、59歳で希望退職(65歳定年)。転職して2年半。現在は社会福祉法人の生活介護事業所で行動障害のある知的障害の人たちの支援をしている。



—どのようなきっかけで転職しましたか？

若いころは運転手をしていたので、パソコンに向かってデータ管理などをする仕事は向かないと思い、ストレスを抱えていました。まだ現場の管理職は対人関係がありましたが、本社の管理職では企画立案、データ管理などばかり。60歳になってから現場には戻れないで、60歳を過ぎて仕事を探すよりも、その前に転職しようと思いました。70歳まで働けるところを探そうと。

自分の取り柄といつても車の運転くらいしかないので、それで70歳まで働くのは難しい。それならば何か別の技術を身に付けようということで、福祉の仕事をしたくてハローワークの職業訓練で実務者研修を受けました。老人介護職を探していましたが、研修の中で障害者福祉の授業が1コマか2コマあって、興味をひかれました。「あたたかい心と、冷めた目を持ちなさい」という言葉が心に残ったんです。

妻が障害者施設で就労支援の仕事をしていたので、障害者ことは聞いていました。知識はほとんどないけれど。老人介護の施設は、年齢的に利用者と差がないということで厳しかったです。面接にも

行きましたが「女性がほしい」と断られたこともあります。ハローワークで現在の法人を紹介してもらいました。

—労働条件（給与・休暇など）はどうですか？

できればたくさん給与をいただけたらいいと思います。労働の対価として。転職してかなり給料は下がりましたが、やりがいは大きいです。

今の福祉の仕事は残業がないです。ただ、私としては少し残業をさせていただけた方がいいと思っています。前職ではずっと残業ありましたし、働くときにガンガン働きたいです。

—企業での経験がどのように生きていますか？

重度の障害者の生活介護の仕事をしていますが、生産性のある仕事に就いていると思っています。行動障害のある最重度の人を、一緒に作業しながら支援しています。



前職の経験がどう生かされたか？と言われて、こうですというのはありませんが、バス会社の前にも営業なり、人と接する仕事をやっていました。障害者とはいえ言葉ある程度コミュニケーションが取れるのではというイメージでしたが、今の施設には言葉がない人もいます。利用者さんの考えがわかったときや、自分の言いたいことが伝わったときはやりがいを感じます。「障害者はこれができて、これができない……」というように思っていましたが、「個性」かなと最近は思うようになりました。個性が強い方というふうに見えるようになってきたんですね。接していると、そう見えるようになります。

—福祉の仕事のやりがいは何ですか？

日々、利用者の気持ちが多少なりともわかるとうれしくなります。やりがいにつながっています。担当する利用者にどんな支援が必要かを考えさせてもらっている。ご家族から「こう変わりましたよ」と聞くと、やってよかったと思える。できないことをできるようにするのは難しいですが、できることをもう少しできるようにするのを考えるのは楽しいです。

—定着のためには何が必要だと思いますか？

初めの2～3カ月は、利用者と意思の疎通ができなかつたため、自分の仕事はただの作業員かと思うことも多かったです。周囲の先輩たちのフォローがあったのが大きかったです。仕事の中に楽し

みが見つけられないと長く続けられません。喜びや楽しみを見つけることが大事だと思います。

今の職場はアットホームで居心地がよいです。仕事はしやすいのですが、その半面、職制に応じた権限があいまいかなという気がして、戸惑うことが多いです。責任は権限があって発生します。下の立場からすると、権限と責任が明確なほうが働きやすいと思います。

—企業からの転職者を増やしていくために、  
どんなことが必要だと思いますか？

どうしても障害者支援や介護はネガティブなイメージがあります。小さいころから植え付けられた印象かもしれません。このままでは転職を考えている人が実際に仕事を探すときに福祉は選択肢に入ってこないです。福祉業界のことが一般の人にはわからないんですね。きちんとした情報発信がされていないと思います。

どこで仕事をしようかというときに選択肢になければ選ばれない。「人が足りない」というだけで、どういう仕事かわからない。企業などで働いている中高年社員にとっては今まで経験のないことであり、自分のキャリアとはまったく違う分野のことなのだから、もっと情報なければわからないです。もう少しわかりやすくオープンにしてくれればいいと思います。

Dさん(60歳、男性)

警察官として刑事課や事務などさまざまな部署を経験し、59歳で希望退職。障害者支援の社会福祉法人に転職して1年。現在は生活介護事業所で行動障害のある知的障害の人たちの支援をしている。



—転職のきっかけを教えてください。

警察の現場でずっと仕事をしていました。人事関係の部署もやっていましたが、このままこの仕事を続けるのはどうかと思うようになりました。現場が好きで警察官をやっていたので、管理業務はストレスがあったんです。定年(61歳)まで働くかと思えば働けましたが、子どもが育ち、住宅ローンもなくなり、まあいいかなと思いました。

ホテル業界などさまざまな仕事を転職サイトでみて応募しましたが、「経験者じゃないとダメ」と書類選考で落されました。

インターネット関係の事務をしていたときに、自分で転職先をネットで検索していたところ、今の社会福祉法人に興味を持ち、メールを出して面接を申し込みました。交番勤務を若いころにしていたとき、障害者とのかかわりがあり、障害者支援のイメージはありました。

—労働条件（給与・休暇など）がどのように影響しましたか？

夫婦ふたり食べられればいいと思っているので問題はありません。年金をもらえるまで働くことができれば。前職からは給与水準は下がりましたが、お金だけではなく、自分のやりたいことができ

ることが大事だと思います。前は不規則な勤務でしたが、今は規則正しいので健康にもなりました。

—前職の経験がどのように生きていますか？

いろんな方と接してきたので、行動障害のある利用者に驚きはないです。ただ、暴れても力で抑えるわけにはいかない。警察官のときには手を出してくる人を逮捕する仕事をしてきましたが、今は、なぜ手を出してくるのかをまず考えないといけない。言葉のコミュニケーションができないと、こうすればどうかな……と毎日アジャストを試しています。故意に悪意で手を出すのではないと思ってはいても、警察官の意識が染みついているので、それを変えるのに半年かかりました。

—入職前に思い描いていたことと、実際との違いはありますか？

障害者の中でも、精神障害のある方は警察官として当直勤務の時に対応するようになりました。知的障害のある人に対応することはあまりなくて、入ってみて、そういうことか……と日々思っています。抱いていたイメージが現場で起きるものとは違う。コミュニケーションを言葉で取りにくい人の支援は課題ではあります。

—今の仕事内容とやりがいは何ですか？

やりがいは日々いろいろ変わってきます。にこつとされたり、ありがとうと言われたりするとホッとします。ちょっとしたことです

が、心が通じ合った感じがします。

—定着のための秘訣は何だと思いますか？

福祉以外で働いている人にとっては、福祉現場を知る機会がありません。ボランティアとかに興味がある人はたくさんいるはず。すそ野が広いと思うので、もっと門戸を開いて体験する機会を得られるといいと思います。たとえば、中高年になって仕事がなくて暇だという人に体験をしてもらう。自分は想像の世界で飛び込みましたが、外から見ているのと中に入って仕事をするのとはかなり違います。

職員にもメンタルが強くない人、思うことがあるけれど言えない人もいます。メンタルケアをしてくれるといいかな。若い人に対するコミュニケーションを密に取ることができればもっといいと思います。

—企業からの転職者を増やしていくために、  
どんなことが必要だと思いますか？

民間企業ではリスクリギングや、他の職種について知る機会があると思います。前職はそういうのがありませんでした。再就職先をあつせんされ、行ってくれと言われるのも嫌でした。知る機会を提供してもらえて、結構いけるのではと思えれば、門戸を叩く人は増えると思います。

警察には人材バンクがあって、だいたい警備会社に再就職します。しかし、警備員になりたくないと言う人もいます。自衛隊、消防などにも福祉の仕事に就きたいと思っている人はたくさんいると思います。

Eさん(61歳、男性)

若いころは酪農や漁業に従事し、かまぼこなどを製造する会社で26年勤務。現在は障害者支援の社会福祉法人の生活介護事業所で働いている。



—転職のきっかけは何ですか？

前の会社は65歳定年でした。景気が悪くて「定年退職してください。アルバイトで働いて」と頼まれましたが、老け込む年ではないと転職を決意しました。新型コロナの影響やロシアの戦争の影響で資材が高騰し、ビニールや工業用接着剤などが入荷にくくなり、利益率が下がってきたためです。

ハローワークに失業保険の説明を受けに行った際、産雇センター（産業雇用安定センター、本冊子35ページ参照）の説明会のお知らせを見て、登録しました。あっせんする際にも全部無料、2週間に1回面接してくれました。4回ほど面接を受けて、前職の仕事の内容や、今までの履歴、今後どういう職業に就きたいか、収入面はどのくらいを考えているなどを聞かれました。ハローワークの1室か商工会議所の1室を借りての面接です。産雇センターの担当者が週に1回この地域に出向いて面接や企業の発掘をしているんですね。それに合わせて面接をしてくれました。

—不安や戸惑いはありませんでしたか？

初めは不安でした。収入面のこともあつたし、この年齢になって

新しい仕事に慣れるのかどうかということも。結局、下の娘が大学を出たのと同時に退職しました。上の娘も社会人になっており、教育費が要らなくなつて、何とか食べていけるくらいの給料をもらえばいいと思いました。

重度の障害者の全介助の仕事と言われたので、寝たきりの障害者を想像していました。実際は30～50代の障害者で歩くこともできる人ばかり。初日、所長（管理者）に「1週間は見ておくだけにしてください」と言われました。驚きの連続でした。

2週間くらいで自分の気持ちは固まりました。なんとかなるだろうと自分に言い聞かせて、小さな不安を一つずつつぶしていました。

今思えば、困ったことは特段にありませんでした。障害者のイメージについては、まったく関係なかったころは偏見もあったと思います。実際に障害者の表情を見たとき、ここで勤められるのかと思いましたが、2週間いるうちに自分もできるんじゃないかと思いました。障害者といつても一人ひとり違う。そういうことも一つずつ経験していくうちに2週間が過ぎていきました。

—労働条件（給与・休暇など）はどうですか？

給与はたしかに安いです。以前の会社での年収は500万円、今は240万円くらい。ただ、食べるくらいだったら田舎で物価は安いし、持ち家なので家賃もかからない。借家だったら大変だったでしょうね。妻は最初不安だったと思います。しかし、ストレスが前職よりも少なく、表情が明るくなつて、喜んでいます。朝も一緒に食事がで

き、妻も楽な感じです。前職は毎日夜中2時くらいに起きて出勤。お店に卸す準備をしなければならず。繁忙期（12月ころ）には休みが取れなくて、残業も月120時間超えでした。残業代が基本給より多かったです。年末は12時半には自宅を出て、夜の9時まで帰ることができませんでした。今は月に10日休みをいただいています。

—前職の経験が生きていますか？

前職では、耐えることを学んだのかな……。何が優先なのかなど仕事しながら、順番付けを学びました。私にとっては仕事あっての私生活。娘2人を大学に行かせることができました。仕事に対する責任感、自分がやらなければという思いもありました。募集しても来ない、若い人が長続きしない、1年くらいで辞めていく……。朝早いし給料は安いしで。イエスマンが多かった中で、人間関係では嫌われていたと思います。

—今の仕事内容とやりがいは何ですか？

前職は利益率の追求のことばかり、頭の中で回っていた。今の仕事は生産性がないと言われますが、そういったことじゃなくて、人のためにやっている感覚がなんとなく自分の中に芽生えてきています。いいことをしているのかな。甘えてくれる方もいる。鼻歌をうたって帰ります。

前はぎすぎすしていました。いいタイミングで退職したと思います。

—定着のための秘訣は何だと思いますか？

障害者に対する理解を、世の中に発信していかないと。関係ない人はわからないし、偏見も多い。待遇面では、結婚して家庭を持つとある程度の収入がないとやっていけないので、やはり給料をもう少し上げてほしいです。

—組織として気をつけることは何だと思いますか？

どういう仕事の内容かをもっともっと発信する必要があると思います。面接で説明を受けても具体的な印象が浮かばなかった。意外と若い人が敬遠する職種ではないかなと思います。



ワープロは打ったことない、体力はあるという自分がここで働く  
せてもらえるのがありがたくて、70歳までは働きたいです。仕事  
しないと体力を持て余します。

(※この法人では65歳が定年、希望があれば再雇用して70歳後半  
まで働いている人もいる)

—今後企業からの転職者を増やしていくために、  
どんなことが必要だと思いますか？

障害者は偏見の目で見られていましたが、最近は変わってきたと  
思います。何らかの形で発信して、理解する人たちがさらに増えて  
いけばいいですね。処遇の改善も必要だと思います。今の時代はみ  
んな専門学校や大学に行く。授業料は高いので給与水準も上げてほ  
しいです。



### Eさんが働く事業所の担当職員の話

前職のスキルや経験を生かして仕事をしている人が多いのか  
なと思います。毎年60人くらい採用していますが、正職員とし  
て新卒で入るのが10人くらい。50人くらいは中途採用です。  
介護や他業界から来る人たちの力で成り立っています。介護  
業界から来る人はノウハウを備えており、即戦力です。

一方で、Eさんのように初めは右も左もわからない、資格の  
ない人もいます。その場合は「まず2週間は観察してください」  
と言うことになります。利用者さんと向き合う、その人を知  
るところからスタートします。特性の理解を深めないといけな  
いですし、やることが多すぎるときつくなります。

当法人では、受け入れ担当者を設けており、メンターをつ  
けるようにしています。障害福祉や虐待防止に関する内容で、  
事業所内研修（月1回）のほか全体研修も実施しています。初  
任者研修は半年に1回です。

法人全体の離職率は、本年度は8%くらいで、定年も含め  
て毎年1桁です。定着率は他法人に比べていいと思います。  
前年から休みの日を104日から120日へ増やしたことにより定  
着につながっているようです。一般企業と比べ、休みは少なく  
バリバリ働いているイメージもありますが、それを払拭しようと  
しているところです。



Fさん(55歳、男性)

宿泊業の副支配人として接客、施設の運営・管理、スキー場運営、行政との調整、採用・経理など業務全般を行ってきた。  
社会福祉法人に転職して2年目。現在は事務職をしている。



—転職のきっかけは何ですか？

運送系も人手が少ないので、いいかなと思っていました。大型免許も持っていて、特殊車両も運転できるし、運転も嫌いではなかったのですが、たまたまハローワークの担当の方から、職種的に現在求人が出ている事務職もどうかと、キャリアを生かした仕事の紹介がありました。

前職では長時間労働があったので、それを解消したかったです。それをハローワークの担当者も知っていて、運送業だとまた長時間労働になってしまうので、福祉事業所の総務はどうかということになりました。

ハローワークでは、かなり親切にしてくれました。自分の経験やキャリアをかなり勘案して仕事を紹介してもらいました。普通は担当の人が変わったりするのですが、決まった担当の人をつけてくれたのが良かったです。

—労働条件（給与・休暇など）がどのように影響しましたか？

特にないです。今までよりは休みが確保できるし、前のところよ

りはいいなと思いました。以前は管理職で、結局、年間70日～80日くらいしか休みが取れない状況だったんです。それに比べればいいなと思いました。休みの日も前職は平日だったので、家族との時間が取れずにいた状況でした。福祉業界は人手が少ないとこことは聞いていたので、その分、人を大事にしてくれるというイメージがありました。給料的にはかなり下がってますが、それは仕方がないことだと思いました。

—前職の経験がどのように生きていますか？

いろんなカタチで、前職でやってきたことは生きていると思っています。事務処理、経理関係はすんなり入れました。使用しているソフトが違いますが、それも慣れました。

前職は接客業で人を相手にする仕事だったので、職員や利用者さんとの関係についても、障害があるとしてもすんなり入ることができた印象。設備の点検や補修等についても、かなり経験が生かされていると思います。予算との兼ね合いを考えながら「これくらいかかりそうだけど、あまりお金をかけずにどうするか？」といったことを考えたりする点は、前職と同じだと思います。

—入職前に思い描いていたことと、実際との違いはありますか？

利用者さんにがっちりと対応するのかなと思っていたが、意外とそうでもありませんでした。

また、前職ではとにかく何でもやらされていたので、そういうも

のだと思っていましたが、マルチタスクではなく、意外とぎゅっと業務が集約されているなと思いました。もっといろんなことをやらされると思っていましたね（笑）。

—今の仕事内容とやりがいは何ですか？

やりがいとしては、時々、利用者さんと話をしたりすることもあるのですが、仲良くしてもらっているので楽しいです。職員からも重宝がられているのでやりがいにつながっています。自分をうまく使ってくれていると思います。頼られている感じがうれしいです。

—一定着のための秘訣は何だと思いますか？

仕事を楽しむことじゃないでしょうか？（笑）前の仕事のときから「仕事は楽しまないと」と周囲に言っていました。楽しく仕事をすると効率も上がるし、良いアイデアも浮かぶといった経験をしてきています。苦しいこともありますが、その中でも楽しみを見つけることが大事だなと思います。例えば、ちょっとした場面で、周囲に声をかけて話を広げるとか、盛り上げていくとか、雰囲気を上げるように意識しています。それは昔から意識していますね。

—組織として気をつけることは何だと思いますか？

以前の職場でその人がやってきたことを否定しないこと。ここでは「以前の職場ではこうでしたよ」と言うと、否定しないで聞いてくれます。経験してきたことを否定されると長続きはしないと思い

ます。いろんな業種を長らく経験してきた者は自信と誇りを持っていると思うので、そこを否定しないような対応が必要だと思います。

—今後企業からの転職者を増やしていくために、  
どんなことが必要だと思いますか？

福祉業界はお給料が上がっていないと感じます。給料は大事だと思います。シニア層を福祉業界に入れていくのであれば、シニアなので前の仕事よりも給料が下がるのは理解できますが、キャリアを否定されたと感じる人もいるのではないかでしょうか。例えば、採用した場合に補助金が出る等の仕組みがあれば、もっといろんな人材を採用できるのではないかと思います。

どの業種でも対人仕事をしていた人であれば、仮に製造業でも金融業でも何でも、福祉業界には入ってこられると思います。いろんな人の転職の業種として福祉は選択肢に十分入ると思います。どんな業種であっても、部下や職員で発達障害を持つ者がいたりするので、どんな業種であっても福祉業界は受け止められるのではないかでしょうか。

今後、いろんな業種でリストラが起きるでしょうから、そういう方々を福祉業界が受け皿になるように変わっていかなければ。その意味でも賃金は大事だと思います。優秀な人を集めたいのであれば、国から「何歳以上で年収これくらいの人を福祉業界で採用した場合には、年間100万円を数年間補助します」といった施策などがあればいいのではないかでしょうか。



今日は本当にいい話を伺うことができました。まずは一度福祉の現場を体験してみようと思います。

もし転職するとなったら、どういうところに相談すればいいでしょうか？ ハローワークはすぐに職を探している人向けですよね。在職中に積極的に職探しをするのも、会社に気が引けますし…。



そんな人たちのために、「産業雇用安定センター」という機関があるんだ。

それ以外にも、地域の社会福祉協議会や、自治体の福祉関係部署に問い合わせてみると「地域ならではの情報」にアクセスすることができるかもしれないよ。

すてきな仕事に出会えるよう、これからも応援するね！



## 公益財団法人 産業雇用安定センター

60歳未満の方の場合、勤務先経由での相談になります。  
勤務先の人事部門等にお尋ねください。

60歳以上の場合は、「キャリア人材バンク」という個人資格で登録できますので、最寄りの都道府県のセンター事務所でのご相談となります。  
詳しくは産業雇用安定センターのウェブサイトをご覧ください。

---

産業雇用安定センター

<https://www.sangyokoyo.or.jp/>



---

事務所・駐在所(出向・移籍支援)一覧

<https://www.sangyokoyo.or.jp/about/location/index.html>



## 転職希望者の疑問に答える

## Q&amp;A

まさか自分が福祉の現場ではたらくことを考えるなんて……。そのような戸惑いや不安を感じている人も多いかもしれません。福祉の仕事を始めるにあたって疑問に思われやすいことについて、Q&Aにまとめました。ぜひ参考にしてみてください。

※ 本欄は、一般社団法人スローコミュニケーション（2021）『障害福祉業界への転職BOOK「福祉ではたらく』から許可を得て抜粋した上で、加筆をしています。



## Q1 年齢に関係なく、未経験者でも働けますか？

**A** 豊富な人生経験を持つ人を求めているところは多く、実際に40代・50代で他の業界から転職して活躍している人もたくさんいます。60代以上でも元気に働いている人はいます。福祉で働く経験がなくても、福祉の仕事に興味や意欲があり、協調性のある人は歓迎されることが多いです。詳しい事情を知らずに企業からの転職や出向に消極的な法人・事業所もありますが、福祉業界すべてがそうだとは思わないでください。採用後に手厚い研修などフォローアップ体制がしっかりしているところもあります。一つの法人や施設を見学して不安や失望をおぼえても、よい職場は他にたくさんあるので、ぜひ安心して働くことができそうな法人・事業所を探してください。

## Q2 給与はかなり下がるのではないか心配です。

**A** 大企業で働いている人に比べれば、福祉の仕事での給与が低いのは否めません。しかし、福祉は不当に安いイメージを作られていると思います。法人によってかなり違いますが、中小企業と比べてそん色ない給与を出している法人は少なくありません。一般企業で定年を過ぎて雇用継続する場合、かなり給与額が減ることを考えると、シニアになってからの福祉の仕事の給与水準は決して低くありません。元気な限り働き続けることのできる福祉の仕事は長い目で見ると恵まれているとも言えます。それぞれの都合に合わせた働き方ができるところもたくさんあります。「3K」などの悪いイメージを持たれる方もありますが、残業がなく休みもしっかり取ることができる職場も増えてきました。給与面だけでなく、総合的に見て納得できる報酬や働き方のできる職場を選んでください。

## Q3 いきなり転職は不安です。ボランティアや出向を経験してみたいのですが、受け入れてくれますか？

**A** ボランティア、アルバイト、出向などを受け入れている法人・事業所は多いです。たいていはホームページがあり、SNSで情報発信をしているところも増えています。自宅から通いやすい場所にある、仕事の内容に興味がある、雰囲気がよさそうなどの点から調べて問い合わせてはどうでしょう。ボランティアや出向を受け入れ体制がしっかりしており、手厚いフォローをしてくれる法人もあります。

## Q4 夜勤や不規則なシフトなど勤務時間はきつい、自由がきかないイメージがありますがどうですか？

**A** 施設や事業所によって様々ですが、障害のある人の暮らしの場であるグループホームや入所施設には、夜勤や土日祝日の勤務などもあります。もちろん、休日はしっかり保障されます。はじめのうちは夜勤をさせないなどの工夫もされています。

生活介護や就労系サービスなど通所施設の仕事は平日の日中の勤務が主になります。放課後等デイサービスなどは学校が終わる時間から夜帰宅するまでの時間に利用者が集中します。夜間や土日祝日の移動支援、訪問介護などもあります。車で利用者を自宅や学校へ送迎するサービスもあり、勤務時間は仕事の内容によって違います。

自分の都合のよい時間に勤務したり休んだりできる仕事もあります。それぞれの法人や事業所によって異なりますので相談してみてください。

## Q5 障害福祉には、実際にはどのような仕事がありますか？

**A** 障害のある人の暮らしを支える「入所施設」「グループホーム」「短期入所（ショートステイ）」、重度障害者の日中活動の場である「生活介護」、就労関係では「就労移行支援」「就労継続支援A型」「同B型」などがあります。マンツーマンで移動などの支援をするサービスとしては「行動援護」「移動支援（ガイドヘルプ）」などがあります。学齢期までの障害児のためには「放課後等デイサービス」「児童発達支援センター」などがあります。

福祉事業所を運営するためには、事務、渉外・営業、栄養管理・調理、運転など、障害のある人を間接的に支える人も必要です。直接的な介護・支援の仕事以外にも、幅広い能力が必要とされています。

## Q6 どのような雇用形態が一般的なのでしょうか？

**A** 事業所によって方針は様々ですが、事業経営が比較的安定していることや人材不足のため、積極的に正職員として採用するところはたくさんあります。自分の都合の良い時間帯や曜日での柔軟な働き方を求めてパート職や契約職員として働いている人もたくさんいます。また、有期雇用から正職員に登用された人も含め、前職での経験を生かして正職員として活躍している人も少なくありません。

## Q7 転職時に資格は評価されますか？ 転職後に働きながら資格は取れますか？

**A** 実際に行う仕事に関係する資格であれば、もちろん評価されます。たとえば、食事の提供には献立作成や調理が必要となるため栄養士・調理師の資格が評価されるといったことはあります。利用者の送迎には普通自動車や大型の運転免許が必要となります。そのほかにもスポーツ関係や事務関係など、さまざまな資格・特技を生かせる場があります。福祉関係の資格ももちろん強みとなります。入職後に福祉の勉強をして資格を取ることもできます。そのために各種の支援を行う事業所もあります。

Q8 福祉の将来性はどうですか。

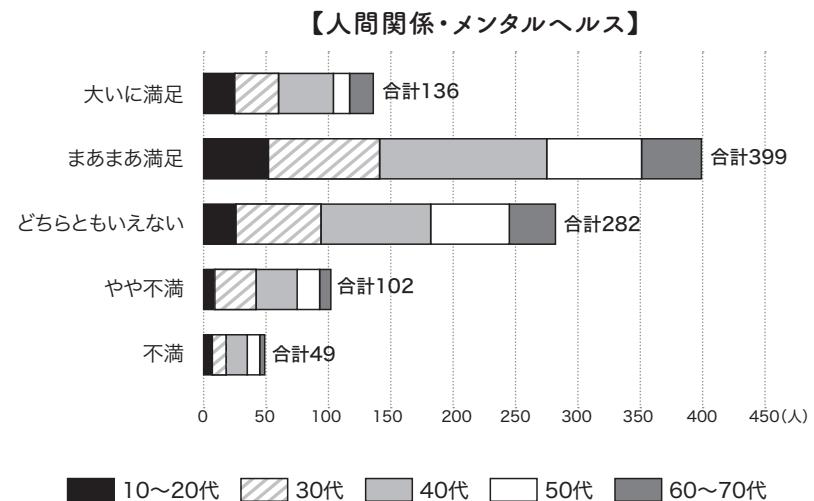
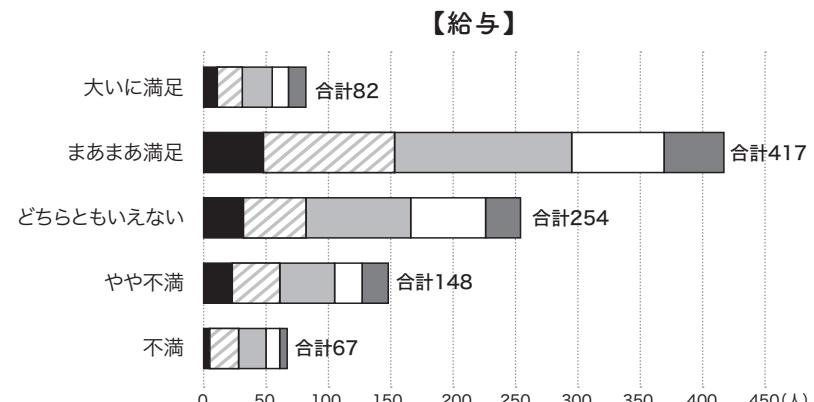
**A** 若い世代では転職後に給与が上がるケースも少なくありません。資格を取得することで手当ての支給も期待できます。障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の施行から19年が経過し、2024年時点では障害福祉サービス等の利用者は約160万人、国の予算額は約2兆円を超えました。施行時と比較するとそれぞれ約3倍以上となっています。だいたいどの地域でも福祉サービスのニーズは増えています。障害福祉サービスの費用は国や自治体が負担しているため景気の波に影響されにくく、経営が比較的安定しているという特徴もあります。国では福祉職員の給与の改善に向けた取り組みを進めており、給与水準は少しづつ上がってきてています。

Q9 障害福祉は、未経験者は入りづらいようなイメージがあります。  
きちんと仕事を教えてもらえるのか心配です。

**A** よりよい支援をするために、チームワークは不可欠だと考えられています。このため、それぞれの障害のある人への支援を検討する会議が機会ごとに設けられたり、管理者などによるバックアップ体制がつくられたりしています。福祉とは関係ない学校・学部の出身者も多く、未経験者への研修やアドバイスも問題なく行われます。

転職した人の満足度

職場の体質などによっては不満に感じる場合があるものの現在の仕事への満足度は全体に高い



今から始める人たちを応援する  
**障害者福祉の仕事**  
**つながり方ハンドブック**

2025年3月31日発行

---

編著 令和6年度社会福祉推進事業  
「企業等から福祉現場への人材供給に関する調査研究事業」  
検討委員会

発行者 岸田宏司

発行所 社会福祉法人千楽  
<https://www.chiraku.com/>

デザイン DeHAMA (百瀬智恵)

制作・印刷 DeHAMA